

機器特有のベースラインの 検討方針

2025年9月8日

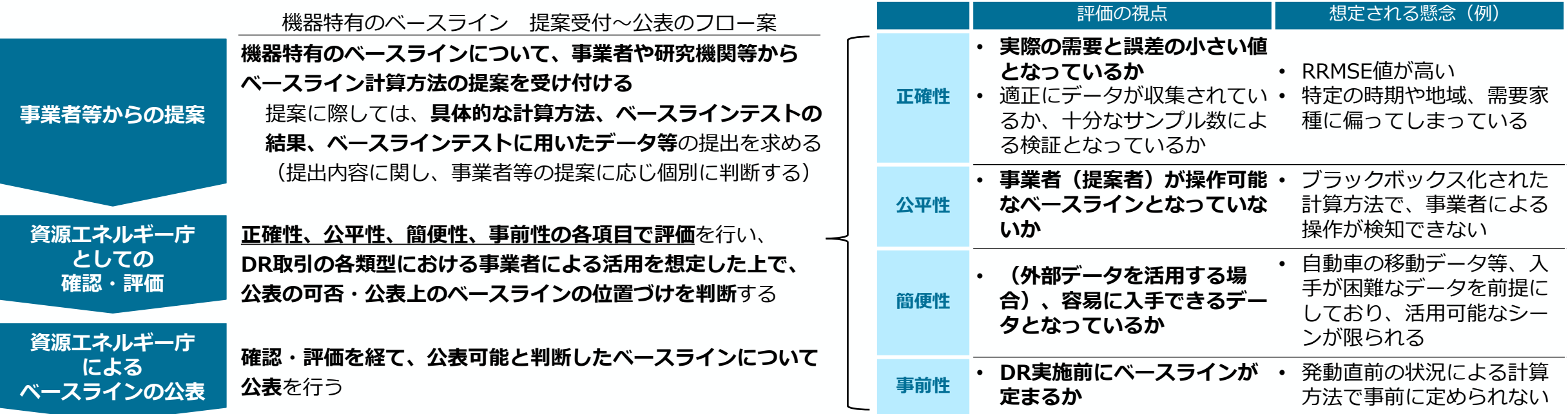
資源エネルギー庁

機器特有のベースラインについて（1 / 2）

- 前回の検討会において、低圧ベースラインについての分析結果をご報告し、ERABガイドラインにおいて低圧ベースラインに関しても「High 4 of 5（当日調整あり）」を推奨することで合意した。
- 一方、今後、発電量が天候によって左右されるPVや電力需要が大きく使われ方に特徴のある各種機器（EVや蓄電池等）の導入が進むと想定される中で、「High 4 of 5（当日調整あり）」ではERABガイドラインで定めているベースラインの誤差の判断基準であるRRMSE20%以下を満たせないケースも増加してくるため、機器特有のベースラインについても検討する必要があるのではないか、とのご指摘もあった。
- 上記の低圧リソースに関わる課題に加えて、高圧でも同様の課題が生じる可能性があるところ、さらなる分散型リソースの活用拡大を見据え、事業者等の知見を参考にしつつ、機器特有のベースラインを検討していくことが望ましい。

機器特有のベースラインについて（2 / 2）

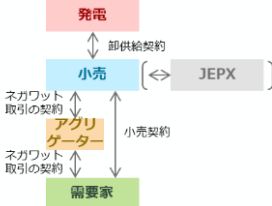
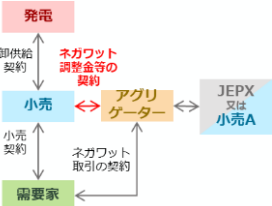
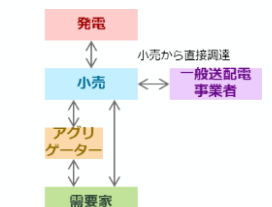
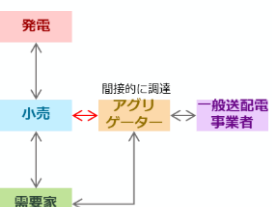
- こうしたことを踏まえ、機器特有のベースラインについて以下の方針で検討を進めることとしたい。
 - ✓ 機器特有のベースラインとして、機器を考慮した受電点ベースライン及び機器点ベースラインを想定し、**事業者や研究機関等からベースライン計算方法の提案を受け付ける。**
 - ✓ 提案のあったベースライン計算方法については、資源エネルギー庁にて確認・評価のうえ、**公表可能と判断したベースライン計算方法について適時公表する。**
- 機器特有ベースラインの提案を検討する事業者や研究機関等については、各事業者等における個別事情や提案を検討しているベースラインの特性等を踏まえ、**どのようなデータをご共有いただくべきか事前に調整する必要があるため、本検討会事務局（資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部新エネルギーシステム課）に随時ご連絡いただきたい。**



【参考】ベースライン活用における各評価項目の重要度（1 / 2）

- ERABガイドラインにおいては、需要抑制量の提供先と調達先の組合せに応じて、DR取引形態は4つの類型（類型1①、類型1②、類型2①、類型2②）に分類される。
- 正確性・公平性・簡便性・事前性の全てが満たされているベースライン（例：標準ベースライン）は、全ての類型において活用可能である。
- 一方、正確性が満たされているものの、公平性・簡便性・事前性のいずれかが満たされないベースライン（例：計算方法がブラックボックス化されているベースライン、高度な処理計算が必要なベースライン、一部事業者において取得制約のあるデータを用いるベースライン）は、類型1②及び類型2②での活用が困難である。ただし、類型1①や類型2①においては、民間事業者間でベースラインについて合意ができれば活用は可能である。
- 次頁に各DR取引類型でのベースライン活用における各評価項目の重要度を示す。

【参考】ベースライン活用における各評価項目の重要度（2／2）

需要抑制量の提供先	需要抑制量の調達先	類型	スキーム例	想定される取引例	ベースライン活用における各評価項目の重要度*								
					評価地点：受電点				評価地点：機器点				
小売電気事業者	直接型	類型1①		小売向け経済DR 卸電力市場	容量市場 (発動指令電源)	ゲーミングメリット**が生じやすい	ネガワット調整不要	ゲーミングメリットが生じやすい	ネガワット調整不要	正確性	公平性	簡便性	事前性
	間接型	類型1②				ゲーミングメリットが生じやすい	ネガワット調整必要	(類型1② x 機器点評価は存在しない)					
系統運用者	直接型	類型2①		需給調整市場		ゲーミングメリットが生じにくい	ネガワット調整不要	ゲーミングメリットが生じにくい	ネガワット調整不要	正確性	公平性	簡便性	事前性
	間接型	類型2②				ゲーミングメリットが生じにくい	ネガワット調整必要	ゲーミングメリットが生じにくい	ネガワット調整必要	正確性	公平性	簡便性	事前性

*各評価項目について、各類型・評価地点間での重要度の高低を比較して評価した。

**不正行為により得られる利得

***アグリ・小売間で活用するベースラインと市場等へ提出する計画値や基準値との整合性は必須ではないため、アグリ・小売間で合意ができれば事前性は必ずしも必須ではない。

(出所) 2020年3月19日 第11回 エネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネス検討会 資料3

【参考】各評価項目の重要度に影響を与える要素

- ・ アグリゲーター等がゲーミング等による不適切なベースライン設定を行った際に、ゲーミングメリットが生じやすい場合、ベースライン計算方法自体の公平性がより求められる。
- ・ ネガワット調整契約が必要な場合、需要家の契約先小売との合意が必要であるため、ベースライン計算方法の公平性や簡便性がより求められる。

影響を与える要因

ベースライン活用における各評価項目の重要度への影響

ゲーミングメリット の生じやすさ

アグリゲーター等がゲーミング等による不適切なベースライン設定を行った際の、アグリゲーター等自身におけるゲーミングメリットの生じやすさ
例) 需給調整市場
不当に高いベースラインを設定していた際に、ゼロ指令下で余分な電力需要創出が必要になる（対応しない場合ペナルティが発生する）ためゲーミングメリットが生じづらい

ゲーミングメリットが
生じにくいケース

ベースライン計算方法自体の
公平性は比較的重要ではない

ゲーミングメリットが
生じやすいケース

ベースライン計算方法自体の
公平性が比較的重要

ネガワット調整契約

他社が小売供給する需要家とDR契約を結び、DRを実施した際に、小売の販売電力量減少に対する調整金（ネガワット調整金）を払うことなどについて取り決めた、アグリゲーター等と小売電気事業者間の契約

ネガワット調整契約が不要で
他事業者との合意が不要な
ケース

ベースライン計算方法の公平性
や簡便性が比較的重要ではない

ネガワット調整契約が必要で
需要家の契約先小売との合意
が必要なケース

ベースライン計算方法の公平性
や簡便性が比較的重要